

## 2023（令和5）年度市政懇談会 開催結果概要

- 日 時 令和5年7月5日（水）午後6時00分～
- 会 場 釧路市生涯学習センター8階 802・803
- 出席者 28人

### 〔市長より説明（別途資料参照）〕

- （1）釧路市の防災の取り組みについて
- （2）市立釧路総合病院の新棟建設事業等の進捗について
- （3）都心部まちづくりについて
- （4）町内会への取り組みについて

### ●質疑応答

#### 【参加者A】

防災の取組について、市長から避難対策や避難の重要性というお話がありましたが、命を守るという点について避難は大事ですが、その先、命を長らえるためには避難所を運営していくことが必要になってくると思います。運営は我々市民がやっていくことなのかと思ってはいますが、避難所の運営についての訓練に関して、どのようなお考えでしょうか。行政で先導して取り組んでいくのか、若しくは民間にお任せするのか、それとも行政と民間がタッグを組んで取り組むのか、あるいは教育機関と連携しながら行政民間含めて取り組んでいくのかなど分かっている点があればお聞きしたいです。

もう一つは、都心部のまちづくりの件ですが、これからワークショップも含めてイベントを開催されるなどの取り組みをされると思いますが、それで終わりではなくて実証実験を行った方がいいと思います。人の流れがどうだったとか、経済効果がどうだったなどの実証実験があるとより深まっていくと私自身は思います。

#### 【市長】

避難所の運営については、先ほど話した一時避難場所と避難所は別になります。互いに命が助かった後の運営ですが、基本は行政で運営体制を行っていくという考えです。例えば、すべての職員がその時点にいる場所から複数名避難所に行って対応を取ります。ただし、それで全部できるかと言われればそうではないと思っています。一時避難場所には当然ご町内の方々、市民の方々、避難された方々がいらっしゃいますが、浸水エリアの避難所は津波が引いても避難所になりませんので、どうしても避難所は津波がこなかったところになります。例えば橋南方面や阿寒など、実は地域の方々のいるところではない場所になります。今までは地域の中で運営してということでしたが、今度は様々な所から避難所に集まってきますので、ここの進め方は変えていかなければならないと思っています。ですから、我々行政だけではなく、併せて医療環境もどのような形で整えていくかなど具体的に進めていくこととなります。我々も津波の中央防災会議のワーキンググループのメンバーに入っており、その中で避難所の運営では日赤病院の先生などに、低体温症の対応や感染症の対応など様々伺っている所であります。それが先ほど説明しました10年で一時避難場所の

確保により命を救うことであり、その次に避難所をどういった形で設置し、運営していくのかなどを進めてまいりたいと思っております。

その上で避難所の訓練になりますけれども、地域のみならず少し広範囲に行っていくことを考えております。ここはご相談していきながら、机上だけでは出来ないと考えております。しっかり進めていき、しっかり外に発信することで皆さんが安心して避難できるように繋げていきたいと思っておりますので、是非様々ご指摘を頂きたいと思っております。

続きましてまちづくりについてですが、実証実験についてどのように行うのかはありますが、ウォークアブルな街は海外が多いのですが、国内の中でも成功事例はあります。例えばそういったところを参考にしていくという方法もありますので、どのようにこれを進めていけばいいのかを考えながら進めていきたいと思っております。

#### 【都心部まちづくり担当部長】

ご指摘のとおり実証実験が大変重要と認識しております。今年度すぐに行うという所までは至っておりませんが、今「集う空間」、「回遊性」、「滞在性」を私たちは目標にして駅前の空間作りをしております。学生を呼んで今ある空間でイベントを開催してみるなどのイメージを持っています。北大通については、最終的に車線数を減らす検討をしていますが、いきなり車道を減らすのではなく、既存の道路で実証実験など出来ることを徐々に進めていきたいと考えています。

#### 【参加者B】

先ほど災害のアプリに関して紹介がありました。毎回、災害情報や市の情報に関してHPやアプリをご覧くださいと案内があります。自分は大学で英語を教えており、今日も学生にスマホで連絡をしたり、障害のある学生に対しては遠隔授業を進めております。いつも気になるのは、スマホで盛りだくさんの情報を得ることは出来るのですが、高齢の方や生活保護を受けている方、あるいは非正規雇用で十分な収入を得られない方が果たしてPCやスマホを簡単に手に入れることができるのかということです。

つまり10年先の計画・目標を立てていると言っても、こういう機器を使えない人に対して、また具体的に歩いていくこともできない、新聞をとることもできない、スマホを持つことも使うこともできない人にどのような手立てを考えているかお知らせください。災害は今日明日にも起きるかもしれません。

#### 【市長】

一つの手段で進めていく場合、対応できない方もいらっしゃるから、そこをどのように進めていくかという事であります。市役所は現場であり、日ごろの業務の中で、例えば障害のある方や施設など様々な方々と日常的に連携しやり取りをしています。その中でこういった課題があるのかについては、日ごろからお声をいただき進めています。例えば安否確認などの業務では、日ごろの業務の中でこういった対応を取っていくのかということになります。

全部が完璧に行えるようにはなっておりません。まずは大きい枠組みの中で、対応方法をお話しさせていただき、日ごろの業務を踏まえていきながら、その対策を取っていく方法で進めているところです。

### 【参加者B】

全ては早急に対応すべきことではないかと思っています。例えば耳の聞こえない人にどのように避難を呼びかけるか、あるいは車いすでしか移動できない人のために冬道の歩道の除雪、あるいは夏の歩道においても車いすで十分進めることが出来る等、すぐにできないことはたくさんありますけれども、市民の為に1日でも早く解決してほしい問題がありますことから、今のような話をさせていただきました。

### 【市長】

そういった観点を踏まえながら取り組んでいます。例えば、土砂災害のエリアの方々に、危ない時にはメールが行くようになっています。その時に、離れているご家族にもメール設定を依頼しています。そうすることによって、ご本人だけではなく、ご家族や親せきの方にも連絡がいくことで手助けをお願いしております。可能な限り現実的な対応を行っていきたいと思っています。

### 【参加者C】

市の取組説明が4点ございました。どれも非常に大切な問題であります。各町内会を対象とした地域の課題の調査で、防災関係とまちづくり関係と町内会関係の3点ほど課題として書かせていただきました。まちづくりと町内会関係はそれなりの回答を頂戴していますが、防災については、まだ現在進行形で頑張っている所もあり、それに期待をしているところであります。

今日も大勢の方に参加いただいておりますが、入るところがないぐらい大勢が集まり、役所の皆さんが困るぐらい集まればいいなと思っていました。ですがこれが現実です。今日以上集まる場所はないのではないかと悲観的に思っています。大好きな釧路の街に住んでいながら、中々思い通りにいかない。役所に言っても改善できないという悲観的な見方の人でも大勢いるのではないのでしょうか。私も町内会長させてもらっていますが、町内会関係でも具体的に防犯灯のLED化や地区会館に協力していただいたことは評価できますものの、残念ながら町内会に入っている人は市内で半分です。これで良いのでしょうか。この大好きな釧路の街をみんなで盛り上げていく必要があるわけです。今見ると諸悪の根源は人口減少です。これは釧路に限ったことではないのですが、人がいない。街を作るのは人と人です。その人が少なくなってくれば、いろんな活動が段々停滞し沈んでいく傾向にならざるを得ません。

いろいろ取り組んでいただいておりますが、若い世代の方が釧路の街から札幌や東京などに離れていきます。やはりこの街に残って、あるいは戻ってきて釧路の街を盛り上げていくために活躍できる場を作ってほしいと思います。何といっても雇用です。今残念ながら釧路の3大基幹産業がこういう状況です。観光も一過性にならないようお願いしたいと思います。非常に大事な問題で、長期滞在者を含め観光で釧路に来られた方が幣舞橋で沈みかけている船を見て、「いったい何ですか」という話を聞いたこともありました。数年前の市政懇談会でそのことを話した時、船の持ち主が分からないという回答でしたけれども、それでは済みません。やはり、市の税金を投入してでも前に進めていただかなければならないのではないですか。

旧日銀のような貴重なものがそのまま放置されていて、夜間ライトアップされているぐらいです。再利用できないものではないのでしょうか。旧日銀に対する取組

みを進めて頂きたい。先ほどリバーサイドの取り組みの説明もありましたが、ぜひ進めていただきたい。駅の高架化も話が出ているだけで一向に話が進まない。そうこうしている内に旭川や帯広に抜かれている状況です。たしかに、防災の視点も非常に大きな問題ではありますが、人の集う空間作りとして駅の高架に対するJRの考え方や駅そのものの青写真が見えません。あわせて駅前通り、北大通の街づくりの関連性がわからないことは問題ではないかと兼ねがね思っていました。

#### 【市長】

まさしくいただいた「雇用」のご意見は大変重要で、基本政策の真ん中に持ってきています。人口減少は1980年代から始まっています。つまり少子化があり、長寿命化がそこを補ってきたところで、2.07の合計特殊出生率を1970年代から下回っております。それに伴って、産業も1996年がピークです。例えば北見は1998年から人口減少がスタートしています。そして、帯広が2000年くらいから人口減少が始まっています。そういった意味では水産などの産業構造とは異なり、農業構造では急激なプラスはなかったのですが、急激なマイナスもなく徐々に下がっていますので、産業と非常にリンクしているものでございます。

その中で、私どもも若い世代の流出を何とか止めたいと考えており、データを取りながら取り組んでいます。かつては15歳から19歳の人たちが5年間で大体2000人、直近の数字では2020年までの5年間に1000人の人たちが転出超過となっています。つまり進学や就職などで釧路を出ていました。ですから、ここを何とかしたいと取り組んでいます。現状の中では全体で年間800人がまだマイナスだけれど、なんとかこれを0からプラスに持っていこうと雇用の政策に取り組んでいます。例えば、100人の会社を誘致してきたら、100の雇用ができるけれども、しかしk-Bizを利用し、地元の会社が儲かることで、そこで1人の雇用が出来、それが100社あったら、イコールになるという考えの中で取り組んでいます。

こういった中で、人口減少ではありますが、コロナ禍で税収はわずかですが上がってきています。しっかりと雇用という取り組みをしている所であり、なんとか実感できる数字に持っていきたいと考えています。

あと日銀については、私どもが手を上げなければ、広く公売される仕組みになっており、計画はありませんでしたが、街の歴史を作ってきた建物でありますので、市として取得しました。もちろん利用していけば良いのですけれども、日銀は老朽化・耐震により新しい建物を建てたという事があります。公が利用する場合には、耐震レベルをしっかりと確保しなければなりませんので、現状は公の場で使うという形に至っていないわけでありまして。ただその中でも15～6年は問題ありませんことから、まずは外観を残しています。街づくりの中でリバーサイドも含め、様々議論しているところであり、是非こういった流れがあるという事を知っていただければと思います。

次に駅については、昭和40年代から駅の話が出てきましたが、今回のプランに付きましては、国の補助調査が採択され、そのなかで調査を行っていますので、今までの議論から一步前に進んだ中で進められています。今後はそういった重みも踏まえていきながら、これからのまちづくり議論を進めてまいります。

### 【参加者D】

私から防災の関係のお願いと、地区会館のお願いです。過日南大通から浦見の高台の歩道を整備し、車いすでも避難できるように舗装工事をしていただいた経過もございます。しかしながら、日銀の旧国道44号線から住吉方面に上がる避難路は1か所しかありません。また城山から材木貝塚方面については、小さい車しか通れない道路が1本しかありません。実際地震が起きると健常者で1分80メートル、老人で60メートルです。東日本大震災の時は貯木場から別保まで流木が流れたこともありますので、緑ヶ岡方面に通じる歩道又は車道を是非作っていただきたい。

特に千代ノ浦から紫雲台、道道の方は、春採方面に整備されておりますが、紫雲台から興津1丁目から2丁目の長生園の方へ行く坂道については歩道の草が茂っており、車いすが通れるような歩道ではありませんので、是非整備をお願いします。

それから地区会館ですが、補助金を増額して頂きありがたいのですが、将来的に会館をどうするのか。今回2館の指定管理者が変わりましたが、あと10年・20年経つとかなり会館も補修が出てくると思います。思い切って民間に払い下げして、自由に使えるような貸館業などをやるような考えがあるのかと思っています。

### 【市長】

必要な所は個別に検討していかなければなりません。先ほどお話ししたように道路を整備することで解決を図るのかということがあります。材木町は高台がありますが、街の方から逃げるときは、「橋は自己責任でわたってください」というような形になりました。以前は、「橋は渡ってはいけない」という事で、通行止めにしていましたけれど、通行止めにする必要があるのかということで、自己責任の中で渡るように変更したり、逆に海川に向かうことが恐怖だという方もいます。

その上で私も歩いて避難するという事をベースにし、大体今は一時避難場所まで600から800メートルぐらいの範囲としており、冬季間の歩く速度で最も少ない時間で避難できる、より高い場所を確保しているところでございます。具体的な場所のお話をいただきましたが、例えばそこに高い建物が無い場合、どこに避難しなければいけないか、またどこから上がるのかという事もあります。例えば大楽毛では外環状へ上る階段を取り付けたり、丘の所も同様な対応を行っていますので、個別の対応をしっかりと行っていく必要があると思います。1つ1つしっかりと行っていきたいと思っております。

地区会館につきましては、いろいろと議論をしていくことが必要と思っております。釧路市も公有資産マネジメントという考え方で、人口22万人の時に人口25万人になる想定で拡大し、様々な施設を作ってきた所です。例えば道路は今1,260キロメートルあります。水道は1,160キロメートル、下水道は1,480キロメートルと拡大し、インフラを持っているところです。22万人から25万人と設定されたものが、15万人に下がった時に、どうやって維持していくのかということが大きな課題になってきています。そういった意味では地区会館も同様のものだと思います。地区会館と児童館の機能を一緒に持つ整備を進めてきたところではあります。そのように進めるところもあれば、そうはいかない所もございますので、地域のコミュニティーを確保していくこ

とは重要ではありますが、これをどういう形で進めていくことになるのかは、今回実施しています民間への公募の経過も踏まえて真剣に相談しながら進めていきたいと思えます。

#### 【参加者E】

市立病院を大きくするという事であり、非常にいいことではあります。ただ現在の状況は市立病院に初めてかかる人は紹介状がないと入れないらしいです。市立病院は皆さんの病院です。そこに初めてかかる人が行くと「紹介状を貰ってきましたか」と聞かれ、「紹介状なかったら診れません」と言われます。「こんな馬鹿な話があるか」と思っています。これについてはどう思っていますか。

また、この図面を見ると、今の駐車場に新棟ができることになっています。そうすると現在も駐車場がいっぱいですので、今後この駐車場が大規模になるようお願いしたいと思います。

それから地区会館の件、私は今運営委員を担当していますが、補助金が上がって非常にありがたいと思っています。ただこの3年間コロナの問題で会館の使用率も少なくなってきたり、本当に大変だったと思えます。ですから、これが続くとそれぞれの地域の会館が、どうしても必要なのかということになります。もう少し大きな場所に建てて、そこを使っていけばいいと思えます。その辺は市長の判断で検討をお願いします。

#### 【市長】

市立病院の紹介状の件ですが、これは国のルールになります。病院機能を分けているということです。風邪などはかかりつけ医ということで、近所の病院に行ってくださいということです。ですから、そういった意味で必要性のある方のために医療機関というものはしっかり確保しており、そのところは市立病院が担っていくという形になっています。それゆえに紹介状がないと行けないという形で日本の医療体制が出来ています。この点は補足的には部長の方からお話させていただきます。

この後の駐車場についても図面を見ながら説明させていただきます。

あと会館については、釧路のコミュニティーを確保する形としてコア3館がありますが、3ブロックに分かれた形で進めてきました。そこが地区会館になりえるのかということ、どうなるのかという事があります。現在行っています公募の結果を踏まえながら、議論を加速させていき、いろいろ検討していきたいと考えています。

#### 【市立釧路総合病院事務部長】

市立病院は診療科がたくさんありますけれども、例えば内科につきましては、全国的な話ですが、機能分化としてまずは市内にある病院の方で診ていただきます。そこで、それ以上の治療が必要になった場合に、紹介状を貰う紹介制を敷いています。それ以外で、例えば小児科や、脳神経外科など市内で見える病院が少ない診療科は紹介制を敷いていません。紹介制を敷いてない科につきましては、ご連絡いただいて診察を受けることができます。精神科につきましては、かなり多くの患者さんが来ており、大体4か月待ちの状態になりますけれども、毎回4か月という括りで縛るのではなく、例えば症状が重い場合は早く受診をしなければいけないという判断を医療者の方で行っております。そのような形

で市立病院は日々の運営をさせていただいています。

駐車場につきましては、工事が始まりましたら現在の第一駐車場が、塞がる形になりますけれども、周辺に駐車場は準備しております。そちらの方で不足分については対応したいと思っています。また新棟が建った時には旧棟を解体し駐車場になります。今の駐車台数よりも約100台増える形になる計画で進めています。

#### 【参加者F】

相馬市に行ってきます。750本の桜を送った経緯があり、それを見に行くことにしました。その関係で、相馬市長の本を読みました。災害時にどういう対応をしたかという内容です。行政サイドで行う災害対策につきましては、その本を読む限りでは、釧路でいうと北海道や国とのやり取りで、いろいろな意味でうまく作用しなかったりします。法律や条例等があり、非常に遅れてきます。そこで相馬市長は自分のネットワークを使って個人的な関係で病院の先生などとガンガンやった経緯があります。その関係で、私が消防分団に所属していた時に、そういうことが必要なのではないのかと考え、消防分団の姉妹分団みたいなことを考えて消防の研究発表会に出したいと言いましたら、消防の事務の方からそれは法的な問題点があって出来ないと言われました。どうしても各行政区分でのやり取りになるため、消防分団が標茶の分団と姉妹提携して何かあった時来てほしいと考えました。行政ばかりに頼らないで、そういうことが出来ないかと発想したのですが、行政側からはそれはちょっと難しいという話を頂きました。

ここで、何を言いたいのかというと、行政の方は行政の方で災害対策は練り上げているのですが、それだけでは済まないと思っている次第です。行政だけでは済まない何らかのネットワークという形のような仕組みを、どういう風に考えていますか。民間ベースで出来ることがあれば話を聞きたいと思います。

#### 【市長】

現実に東日本大震災が起こった時、いかに今まで進めていたものが机上の空論に等しいものかと感じました。現場の中で、いかに判断していかななくてはならないことが山のようにあるのかという事で、私もお話を伺っている所でありませう。相馬市長はお医者さんであり、自分のネットワークを持っています。私の方でも例えば空港関係などのネットワークを持っております。どうしても行政はまず自分たちの所は自分たちの所でやっていきましょうという所から始まり、そういった中で道とか国とかの手順が出てきますけれども、これはこれで良いことだと思っています。ただ、危機的状況の時は、首長が判断しながら前に進めていく形でしかないと思っています。胆振東部の時もネットワーク使い苫小牧に2000枚の毛布を送った経緯もあり、そういった所を進めて行ければと思っています。

さっきの消防団も行政みたいなものになります。そこをどうするのかについては、日ごろからどういった連携を取っていくかということもありますが、ここは私の方が進めていくしかないと思っていますので、最大限の様々なネットワークを使いながら、役所内でも使えるような環境を作っていきたいと思っています。

### 【参加者G】

災害対策士として、普段から自主防災組織としてやっています。その中の一つに「日本ディモート」という活動があり、ネガティブな内容になりますが、災害復興時に復興の遅れの原因が、災害廃棄物の処理とご遺体の対応になります。それは過去からずっと問題になって来ていますが、私共は最悪釧路では3000人と見込んでおります。その際に私共のディモートの活動は遺体安置所でのご遺族の支援になります。あわせて遺体の対応に慣れていない行政職員のケアと支援という対応をしています。その時災害対策本部との情報伝達をどのように行えば良いかといつも思っています。

あともう一つですが、中長期の避難所の運営というのは、市民が主導でやっていかなければならないのですが、その中で物資の受援活動や人のオペレーションを行っていくにあたって、災害対策本部と公助の部分をどういう情報伝達や広報をしていけばいいのかと思っています。これから積極的に私共とやっていっていただきたいと思っておりますが、本部長となる市長の意見を頂きたいと思えます。

### 【市長】

現実的な問題があり、様々な事例がある中、災害廃棄物については、もっと大きな課題になると思っており、全体的に相談している所ではありますが、亡くなった方の遺族へのケアについては、私の所まで情報が入っていない状況でありますので、打合せを行っていただければと思います。

まずは命を救う観点の中でどのように進めていくのかを第一に考えており、その次に避難所の運営についてどのように課題を解決していくのか、現実的な所で先ほど話のありました障害のある方への対応等の実態をあわせながら進めていこうと考えております。対応は防災になるのか福祉になるのかという所はありますが相談しながら進めたいと思えます。